

徳島市民病院だより



徳島市民病院の理念

「思いやり・信頼・安心」

〒770-0812 徳島市北常三島町 2丁目 34 番地 徳島市民病院
Tel(088)622-5121(代表)

平成30年

15号

平成30年4月

平素より、当院の診療および医療連携につきましては大変お世話になりました。感謝申し上げます。本年度は徳島大学の関連病院としての人事異動により、15人の先生が新たに赴任されました。厳しい医療情勢の中ではありますが、職員一丸となって最善の医療の提供を目指しております。

4月1日付で2人のリウマチ専門医と手外科専門の整形外科医1人が配属され、昨年度まで開設していた「脊椎・人工関節センター」を、対象疾患として変形性関節疾患に新たにリウマチ性関節疾患を加え、より関節疾患治療に特化した「関節治療センター」と改称しました。同時に、徳島県内のリウマチ・膠原病の拠点病院として「リウマチ・膠原病内科」を新設しました。昨年6月には緩和病棟（24床）が認可され、腫瘍精神科医を



三宅 秀則

院長あいさつ
新年度にあたって

中心としてすでに稼働しておりましたが、新たに緩和ケア内科医1人が着任し、徳島県の緩和医療の向上を図っていくつもりであります。さらに、内科医師の増員により、地域の救急医療に貢献できるよう、内科系当直体制も昨年度よりは充実させることができました。また、南海トラフ地震は将来高い確率で生じると言われていますが、この度、新たに3人のDMAT隊員が認定され、DMAT隊員は15人体制となり、災害時にも十分機能する病院としての体制を整えつつあります。職員の福利厚生面でも大きな進展がありました。念願だった院内保育所が4月1日オープンしました。今後も女性が安心して働ける職場づくりを目指します。

地域医療、救急医療、災害医療は地域に根ざす公立病院として、当院の基盤をなす部分でありますので、さらに充実させ、住民の皆様にごに在ってほしい、と思われるような病院をこれからも目指していく所存です。

新任医師を紹介します

- | | | | | | | | |
|-----------------------|--------------------------|----------------------------|--------------------------|--------------------------------------|-------------------------|--|--|
| 外科

医師
山本 清成 | 外科

主任医長
井上 寛章 | 外科

主任医長
杉本 光司 | 外科

主任医長
井川 浩一 | 緩和ケア内科

診療部長・緩和ケア病棟医長
片山 和久 | 内科

主任医長
和田 浩典 | 内科

主任医長
長谷 加容子 | 内科

主任医長・
関節治療センター副センター長
岸 潤 |
| | 麻酔科

主任医長
櫻井 静佳 | 泌尿器科

主任医長
木内 慎一郎 | 耳鼻咽喉科

医員
石谷 圭佑 | 産婦人科

医長
立花 綾香 | 小児科

医長
市原 裕子 | 小児科

主任医長・地域周産期母子
医療センター副センター長
井上 美紀 | 整形外科

主任医長
佐藤 亮祐 |

スタッフ紹介

センター長：中野俊次
(日本リウマチ学会専門医・指導医)
 副センター長：岸 潤
(日本リウマチ学会専門医・指導医)
 整形外科部門 上肢担当：佐藤亮祐
 下肢担当：中野俊次、中村勝、吉岡伸治
 外傷担当：竹内誠、樋口忠弘
 リウマチ・膠原病内科部門：岸 潤
長谷加容子
 (日本リウマチ学会専門医)
 リハビリテーション科部門：江西哲也
(日本リハビリテーション医学会専門医・指導医)
 理学療法士 13 人、作業療法士 4 人



ナビゲーションシステムを使用した人工股関節置換術

リレー版
 研修医日記

臨床研修医2年目 近藤 圭大



徳島市民病院で研修させていただいて早くも1年が経ちました。今までさまざまな科で研修させていただき、多くの事を学ばせてもらったので、その一部を紹介したいと思います。

まず、私の研修は内科からスタートしました。内科では輸液、薬の選択方法など医師として基本的な事から、診断に至るまでのプロセスなど細かに指導していただきました。外科研修では、多くの手術に入らせてもらいました。研修医の立場ですが、させていただけるとは多く、充実した時間を過ごすことができました。救急での研修は、自分がまず患者さんにコンタクトを取り、得られた情報をもとに上級医の先生、日直の先生方の指導のもと次の検査、治療方針を考えて診療に当たるといった研修ができました。

さまざまな科で研修させていただきましたが、共通していることは指導医の先生に手厚く指導していただき、患者さんの力になれるよう働けたことだと思います。先生方、コメディカルの方々には本当に優しく、市民病院で研修できてよかったと思います。残り1年を切りましたが、まだまだ成長できるように頑張ってお参りますのでよろしくお願いいたします。

理学療法は、関節疾患や外傷の術後を目指します。

【リハビリテーション科】

急性期から回復期まで継続したりリハビリテーションにより、早期社会復帰を目指します。

これまで以上に、成績の良い関節治療を提供し、多くの医療施設から信頼して紹介して頂けるように日々努力してまいります。
 (中野俊次)

関節治療センター誕生
 3科が連携し治療

近年、高齢者人口が急増する中、日常生活に支障をきたす関節疾患の患者数が増加し社会問題となっております。

2012年に設置した「脊椎・人工関節センター」は、脊椎と下肢関節の手術療法に特化したセンターとして運営してまいりましたが、「関節治療」をキーワードに、加齢による関節疾患だけでなく、機能障害をきたすリウマチ性疾患にも対象を広げ、整形外科、リウマチ・膠原病内科、リハビリテーション科の3科が連携して集学的に関節治療を行う県内唯一の「関節治療センター」として本年4月に改組しました。リウマチ専門医の岸潤先生と長谷加容子先生、手の外科専門の佐藤亮祐先生が新たに

加わり、リハビリ専門医の江西哲也先生とのチーム医療を基本に取り組みでまいります。
 対象症例や治療などの具体的な取り組みを紹介します。

【整形外科】

下肢関節のみならず上肢関節を加えて、関節疾患全般に対象を広げ、手術（人工関節手術、骨切り術、骨接合術）にて高度な機能再建を行います。

2014年4月から人工股関節手術はナビゲーションシステムを導入し、より精度が高く、安全安心な手術を心掛けていきます。

①変形性関節症など慢性関節疾患

②外傷のなかでも機能障害が起こりやすい難易度の高い関節内・周囲骨折症例
 ③関節リウマチによる関節破壊（特に手指）が著明で、高度な関節変形、拘縮をきたし薬物治療では改善しない症例
 ④SLEなどの疾患自体、ステロイドなど薬物やアルコール多飲が原因で骨壊死に陥った症例

【リウマチ・膠原病内科】

関節に症状・障害をきたしやすいため関節リウマチ、SLEなどの全身疾患を早期に的確に診断、薬物治療を開始し、病状をコントロールし、改善、寛解に導いていきます。

特に関節リウマチは抗サイトカイン抗体などの生物学的製剤治療により、早期診断、早期治療にて寛解の達成を目指すことができます。

に対して、早期離床、関節可動域改善など関節機能の再獲得を目標に、患者の状態に応じた疼痛の少ない理学療法を提供します。

作業療法では、自宅復帰に必要な日常生活動作訓練を行います。また手指や上肢の術後患者には適合するスプリントなどの器具を作成したり、適切な自助具を用いて日常生活・職場復帰に必要なリハビリテーションを提供します。

麻酔なんて怖くない



麻酔科主任医長

山口 幹代

皆さんは、麻酔という言葉についてどのように感じているでしょうか。経験されたことのない方は、まず「怖い」という気持ちを抱かれるかもしれません。徳島市民病院では年間3400例以上の手術症例があり、そのうち局所麻酔を除く約2500例を麻酔科医管理で行っています。当院には4人の麻酔科医がいます。麻酔は手術内容に応じて、全身麻酔単独、あるいは全身麻酔+硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔+硬膜外麻酔、神経ブロックなどさまざまです。

手術侵襲から患者を守る

麻酔の目的は、ひとことで表すと、手術を受けられる患者さんを手術侵襲から守ることです。具体的には、手術中の出血や傷の痛みから解放することはもちろん、全身麻酔手術中は鎮痛剤や筋弛緩剤などによって患者さんの生命維持機能の多くが低下するため、呼吸、脈拍、血圧、体温などの管理も私たち麻酔科医の重要な役割となっています。

慢性疾患にも配慮必要

このほか、手術前に患者さんの抱えるさまざまな疾患にも配慮が必要です。徳島県では、慢性閉塞性肺疾患（COPD）での死亡率が全国ワーストを記録し、糖尿病死亡率も依然上位に留まっています。これらの慢性疾患を抱える患者さんは、心臓、腎臓、脳血管障害を併せて罹病していることがしばしばですので、これらの疾患をできるだけコントロールして手術に臨むことが必要です。当院では、各診療科の先生方の協力のもと、できるだけよい状態で手術に臨んでいただいております。

最適の麻酔深度を提供

また、手術室7室のうち3室に集中治療レベルの高機能の人工呼吸ができる麻酔器を装備し、COPDで在宅酸素療法（HOT）を受けている患者さんにも安全に全身麻酔を行っています。さらに、全身麻酔中の鎮静薬と鎮痛薬の相互作用を自動分析し、ひと目で麻酔レベルを把握できるスマートパイロットビュー（SmartPilot View）を搭載し、患者さん一人一人にとって最適の麻酔深度を提供できる環境になっています。患者さんの心配される術後鎮痛に



関しては、定評のある硬膜外麻酔以外にも、点滴からの鎮痛薬持続投与や超音波ガイド下神経ブロックなどを積極的に行っています。患者さんは、すべての方が異なる状況を抱えています。気になることには私たち麻酔科医に遠慮なさらずにお聞きください。

全身麻酔

意識がない



全身麻酔
手術中は完全に寝ている状態

局所麻酔

意識がある



局所麻酔
手術中は目覚めている状態

硬膜外麻酔
脊髄くも膜下麻酔 など

悪性リンパ腫

悪性リンパ腫は、約6割の症例で頸部、腋窩、鼠径などのリンパ節腫脹がみられます。その他には、鼻腔、咽頭、甲状腺、消化管、肝、脾、肺、皮膚、骨髄、眼、脳などのリンパ節以外のさまざまな臓器に発生します。通常は痛みのないしこりとして現れ、数週から数カ月かけて増大します。罹患率は人口10万人当たり年間約19人と、年々増加傾向にあります。病型によって進行度、治療法、治療効果、予後が異なるために、病変部から組織を採取して病理診断を行うことが重要です。

主な治療方法は、薬物療法（抗がん剤、分子標的薬）と放射線治療です。近年は悪性リンパ腫治療においても分子標的薬による治療が広がっており、治療成績の向上がみられています。従来の化学療法とは異なる作用機序の治療薬の開発も進んでいます。当院は日本血液学会認定研修施設であり、渡辺、橋本、竹内の3人を中心に血液専門診療を行っています。入院無菌治療室を合計9床運用しており、空気清浄度の高い環境での治療を提供しています。また外来治療が可能な場合は、外来化学療法室を利用した治療を行っています。悪性リンパ腫が疑われる患者さんがおられる際には、当院へのご紹介をお願いいたします。

（内科 橋本年弘）

がん豆知識



院内保育所が開所しました

子育て中の職員が安心して仕事を継続できるように、と設置をすすめていた院内保育所が病棟5階に完成し4月2日、開所式がありました。

保育所は、広さ143平方メートル、定員20人で、生後57日から就学前まで利用できます。通常保育(7:30 - 18:30)や1時間の延長保育のほか夜間保育にも対応しています。保育プログラムは、曜日ごとにスポーツや音楽活動が準備され、金曜日には英語の保育もあります。運営は徳島市の「(株)クラッシー」が行います。

挨拶に立った三宅秀則院長は「県内拠点病院で最後になりましたが、念願の院内保育所ができました。育児と仕事が両立できる制度面・施設面でのサポートのため設置しました。今後も女性が安心して働ける職場づくりを目指します」と話しました。



導入したマンモグラフィー装置と操作を担当する3人の女性技師

徳島市民病院は、1月に最新のマンモグラフィー装置を導入しました。以前の装置に比べ、X線に高感度のフラットパネルディテクタ(FPD)を搭載している

最新のマンモグラフィーを導入

ため、被曝線量を抑えながらも高画質で鮮明な画像が得られるのが特徴です。また、乳房内を3次元的に表す「トモシンセシス」機能を搭載しており、これまでの2次元機器では不可能だった断面画像も得られます。これにより組織の重なりを無くした状態で診断できるため、日本人に多い「高濃度乳房」に対し、診断精度が上がったという報告もみられます。操作は3人の女性放射線技師が担当します。



第9回病院まつりにお越しください

市民の皆さんに市民病院についてもっと知っていただくため、今年も「病院まつり」を開きます。楽しいイベントが盛りだくさんですので、ぜひお越しください。

日時：7月21日(土)
9:00 ~ 13:00

場所：市民病院 地下、1階、2階
内容：▽ヘリポート見学▽皆谷尚美コンサート▽バザー▽バルーンアート教室▽こどもお薬教室▽親子救命教室など

※駐車場は無料開放しますが、台数に限りがあります。

問い合わせは、まつり実行委員会事務局(622-5121)へ

第30回徳島市民病院地域医療連携会を開きます

県内連携医の方々と市民病院医師との親睦を深め、地域医療のさらなる充実を図るため、下記の日程で講演会と懇親会を開きます。後日、案内文をお送りいたしますので、ご出席いただきますようお願い申し上げます。

日時：7月5日(木) 19時~
場所：阿波観光ホテル

【講演】
「関節治療センターについて」
(中野俊次センター長)
(岸 潤副センター長)

「乳がん診療の up to date」
(日野直樹がんセンター長)

なお、20時から懇親会があります

がん専門薬剤師研修施設に認定されました

徳島市民病院は4月1日、日本医療薬学会から「がん専門薬剤師研修施設」に認定されました。認定期間は平成30年1月1日から5年間です。

「がん専門薬剤師」は医療薬学会の専門資格です。がんの薬物療法に高度な専門知識があり、医療現場で活躍できる薬剤師を養成する目的で、専門資格が作られました。資格取得要件の一つに「がん専門薬剤師研修施設で5年間の研修」という項目があります。今回の研修施設認定で、当院の薬剤師は他院に研修に行かなくても、市民病院で「がん専門薬剤師」の認定資格を得ることができるようになりました。

今後は当院だけでなく、他院からの研修を積極的に受け入れることで、徳島県内全体のがん専門薬剤師の増強に努めていきます。